

# 葬送の自由をすすめる会の今後を憂う (会報用原稿)

平成27年2月27日

当会は、かつては新鮮な感動をもって生まれ、融和と信頼によって約20年の間結束してきました。

ところが今まさにこれが崩壊の危機にさらされています。

理由は二年半前に安田前会長の職を引き継いだ島田裕己現会長の想像を超えた無定見な運営方法によります。

定款にない運動の開始、地方支部への不適切な対応、会計上不明朗な処理など、あげればきりのない島田体制の闇が見えてきます。

私たちはこの会の明朗化と、今後の会の健全さを図るため有志が集まり、議論を重ねてまいりました。

## 問題点

島田会長は「自然葬からゼロ葬へ」と、会のこれまでの基本方針である自然葬から、その運動の方向転換を訴え続けています。

火葬場に遺骨を放置して終わるゼロ葬と、遺骨(遺灰)に哀悼を込めて海や山に自然に還す自然葬とは、基本的に相容れないものです。

定款にはゼロ葬は書いてありません。

最大の問題は、地方支部に対する島田会長の冷淡さです。

就任早々に訪れた北海道支部では、まるで支部不要論とも受け取れる発言をして支部会員の不興を買い、それから一年たっても融和の兆しは見えません。

とうとう支部会員は怒って解散を決議してしまいました。

さらに島田氏は北海道にある本部の所有する自然葬の土地を売却するため、密かに役場に人をよこして相談させるなど、陰湿な島田体制が浮き彫りにされました。

こうした体質は北海道支部だけではありません。

東北支部では、支部幹部の方の善意を誤解したまま理解しようとしなくて、反対に退会を促すというような本部の干渉があって、憤慨した役員は退会するというような騒ぎがありました。

こうして東北支部も支部の名簿から消えて行きました。

広島講演会について現れなかったという島田会長の無責任さとははや迂闊という言葉ではすまされない深刻なものがあります。

こうして会員数は島田会長になって急速に減少していきます。

その原因を会報5号108項では「会に対する批判は指摘されて

いるほど大きくはなく、高齢化に伴う自然減の増加と新入会員の伸び悩みだ」と分析しています。

つまり島田体制には大きな責任はないということです。

運動は常に責任と反省が必要です。謙虚さを欠く運動はいつかは破綻します。私たちはそれを恐れるのです。

本部の会計は昨年度、本年度ともに2千万円の赤字になっています。何に使ったのでしょうか。このまま赤字が続きますとあと3、4年で会は破綻します。

また、理事会についてですが定款の第17条では、理事の欠員が定数の3分の1を超える場合は遅滞なく補充しなければならないとなっていますが、現在6人の理事で運営されています。

しかも安田前会長時の理事役員は全員解任されていて、現島田会長の選出した役員のみですので、これでは公正な会の運営がなされているとは考えられないとの結論に至りました。

何もかも先の見えないこの会の、健全な将来に向けて、私たちは勇気をもって声をあげました。

どうか葬送の自由をすすめる会がまっとうな姿に戻りますよう会長にはご賢察くださいますようお願い申し上げます。

葬送の自由をすすめる会を明るくするための有志の会

(略称 有志の会)

代表世話人

酒井卯作